

2020年3月期第1四半期 機関投資家・アナリスト向け電話会議（決算） 主な質疑応答

Q1 百貨店について。

6月の免税売上が減少している要因をどのように考えているか。
7月以降も続く見通しなのかを確認したい。

- ・ 要因の一つとして、米中の貿易摩擦等を背景とする円高、元安の影響を受け、中国人の消費マインドの低下、来訪者数の減少につながっているのではないかと考えている。加えて、中国人バイヤーが減少していることも考えられる。
- ・ 現状で7月以降の状況をお伝えするのは難しいが、引き続き状況を注視していく。

Q2 複々線化効果について。

5月、6月の輸送人員は対前年で増加しているが、7月以降の見込みを確認したい。

- ・ 第1四半期の輸送人員については、計画比で通勤定期△0.1%、通学定期はほぼ計画通り、定期外+1.7%であった。
- ・ 複々線化による利便性向上は、継続的なPR施策等を通じて徐々にお客さまに浸透しており、順調に効果が出てきていると考えている。
- ・ また、定期外については、都心方面への所要時間の短縮や千代田線直通列車が増発した効果により、お客さまの鉄道利用喚起や他社線からの転移につながっているものと考えられる。
- ・ 引き続き旅客の増加が期待できるエリアでPRを行うなど、増収につながるよう努める。

Q3 百貨店について。

上期の計画では増益となっているが、その要因を確認したい。

- ・ 町田店と藤沢店においては、昨年6月から本年3月までリニューアル工事を行っていた。
- ・ 第1四半期は、リニューアルによる運営形態変更に伴い、人件費や経費の削減を行った効果により6千万円の増益となっている。
- ・ さらに、第2四半期においては、リニューアル工事により一部休業して営業を行っていた前期の反動を受け、第1四半期よりも増益幅が大きくなる計画である。

以上

※ 本資料については、質疑応答の内容をそのまま書き起こしたのではなく、加筆・修正等を加え、当社がまとめたものであることをご了承ください。